

V 調布市立上布田保育園

第1 基本方針

平成31年度から始まる幼児教育・保育の無償化、消費税10パーセント増税など大きな変動を迎える社会情勢の中で、保育行政にも多大な影響が出ることが予測される。平成30年度より施行された保育所保育指針を受け、当園でも職員の研修を重ね、子どもを真ん中に置いた保育について語り合ってきた。これから保育をめぐる状況が変わり、保育園の置かれる環境も大きく変わっていくことが考えられる中、どんな状況下になっても、「子どもの最善の利益を保障する」という揺れ動くことのない強い思いを持った職員でいられるように、引き続き職員育成をしていく。

また、社会の変動に対して職員一人ひとりが正しい知識を持ち対応していけるように園内研修を重ねていく。

保護者支援においても、保育士体験・保育参観等を通して「子どもにとって大切なこと、必要なことは何か」ということをともに考え、信頼関係を深めてきた。保護者と肩を並べて子育てと一緒に取り組むことで、子育てに対する価値観や目指す保育についての共通認識がなされている。変わりゆく社会情勢の中で、今後保護者の価値観にも変動が見られることも予想される。今まで築いてきた信頼関係をもとに、保護者と肩を並べて一緒に子どもを守っていくという姿勢を大切にしながら、今後さらに信頼関係を深めていけるように努めていく。

また、当園では2年前より栄養士・看護師・調理士・主任・副主任で構成された「食育・アレルギー会議」において討議を重ね、食育計画・食育体験計画等を作り上げてきた。さまざまな職種の職員が一緒になって話し合いを積み上げていくことで、いろいろな観点から食育を見直す機会となった。それをもとに全職員がもう一度原点に立ち戻って「食」に関して学び、保育の中の食育についての理解を深め、調理職員、保育士が一体となって子どもの食育体験活動に取り組んでいく。

第2 経営目標

保護者支援に直結する「保育士体験」を本年度も推し進めていき、更なる参加者の増員とともに、より中身の濃いものへとステップアップしていきたい。また、保育参観においても積極的に参加を促し、より保育園への理解を深めていきたい。本年度の目標を次のとおりに掲げ、父親の参加もより増えていくように働きかけていく。

- | | | |
|-----------|---------------|-----------|
| (1) 保育士体験 | 参加者100人(延べ人数) | 参加家庭数60家庭 |
| (2) 保育参観 | 参加者60人(延べ人数) | 参加家庭数50家庭 |

第3 重点事項

1 子どもを真ん中にした保育の充実

子どもたちの主体的な遊びを大切にし、職員はどの子ども「やってみたい」ことが必ずみつかるとなるような環境作りに努めていく。

また、職員はいつでも子どもの声に耳を傾け、一人ひとりと対話を重ねることで深い信頼関係を結び、安心して自己表現していける場の提供をしていく。

- (1) 幼児クラスのたてわり保育の生活の中で、お互いを認め合い、支え合う経験を積み重ねることで自己肯定感を育てていく。
- (2) 乳児クラスは緩やかなたてわり保育に取り組み、「ここで遊びたい」「この子と遊びたい」と思う気持ちを汲み取り、主体性を育てていく。
- (3) どの行事においても子どもの主体的な遊びから導き出され、育ちの糧になっていくものになっていくように職員が話し合いを重ね、子どもたちが参画していけるように援助していく。

2 保護者支援の充実

本園が大事にしている「保護者と手を取り合って一緒に子育てをする」ということに取り組みながら、今年度はさらなるステップアップを目指し、「職員と保護者が肩を並べて保育園を一緒に作り上げていく」ことに取り組んでいく。

また、保護者が子育てを楽しみながら実践する力をつけるようにサポートをしていく。

- (1) 保育士体験で一日を通しての保育を体験し、子どもにとって大切なこと、必要なことは何かということと一緒に考える機会を持つ。
また、保育参観を通して保護者とともに育ちの喜びを分かち合い、子育ての楽しさを伝えていく。
- (2) 連絡ボードで写真などを活用しながら丁寧に日々の様子を伝え、子どもの育ちが実感できるような働き掛けに努めていく。

3 園内研修・職員会議の充実

園内研修でつけてきた自己表現する力をさらに向上していけるように努め、職員会議においても職員一人ひとりが意見を持つてのびのびと発言し、全職員で保育園を作り上げることに高い意識を持って参加することを目指していく。

- (1) 園内研修ではさまざまなテーマにおいてグループ討議を重ね、目指す保育の擦り合わせや倫理観等の共通認識を深めていく。
- (2) 職員会議の組立を見直し、職員が意見を出し合い討議する機会を多く持ち、職員一人ひとりの意識作りをしていく。

4 食育活動への取組

食育計画や新たに作成した食育体験計画をもとに食育活動に取り組み、実践していく中で討議や振り返りを繰り返し、子どもにとって大切な食育活動について理解を深めていく。食に興味を持ち、豊かな食育体験活動を提供していく。

- (1) 保育と調理の職員が一体となって、子どもにとって必要なさまざまな食育活動について話し合いを重ね、積極的に取り組んでいく。
- (2) 食育活動を通して保護者に「食」の大切さを伝え、子どもたちの健やかな育ちへと繋げていく。